

令和4年度 長崎県立島原農業高等学校 学校評価表										
学校教育目標	(1) 誠実で、責任と礼節を重んじ、自らを律する心を育てる。 (2) 師弟同行による活力ある学校づくりを目指し、愛校心と勤労を尊び奉仕する心を育成する。 (3) 創造性豊かで、主体的に学ぶ態度や思考力・判断力・表現力などの能力を育成する。 (4) 「いのち」と「人権」を尊び、協調する心を育成する。 (5) 我が国及び郷土を愛する心と自然・伝統・文化を誇りに思う心を養うとともに、国際社会を主体的に生きる力を育成する。 (6) 起業家精神に富む優れた農業後継者を育成する。									
教育方針	長崎県教育方針を基に、高等普通教育と農業・家庭に関する専門的知識・技能を施し、我が国及び郷土の発展に寄与し、国際社会に貢献できる心豊かな社会人を育成する。									
前年度の成果と課題						本年度の努力目標				
<p>1.特別指導の案件1件と落ち着いている。</p> <p>1.一部特定の生徒の指導に苦労している。</p> <p>2.コロナ禍ではあったが、人数制限など工夫をしながら学校行事は実施することができた。十分とは言えないが生徒が活動・活躍できる場面を設けることができた。</p> <p>2.このような中でも、上級生を中心に上位入賞を目指し練習や活動に取り組んでいる。途中で退部した生徒の活動があまりできていないので、いかにするか今後の課題である。</p> <p>3.昨年3.0であったのに対し、今年度は2.7に減少した。生徒への働きかけをもっと積極的にいき、家庭学習の定着化を図りたい。</p> <p>3.図書館便り(「あめんぼ」)は目標通り月1回発行できた。また、生徒による図書館便り(「あけぼのすぎ」)も発行したが、図書館入館者および貸し出し数の増加にはつながらなかった。</p> <p>3.日本農業技術検定は合格率がアップした。さらに合格者数を増やしたい。</p> <p>3.就職希望者が数名残っているが、ほぼ希望の進路は達成できた。特にグレーゾーンの生徒への指導が課題である。</p> <p>3.目標はできているが、施設の更新が進んでいない。</p> <p>4.各クラスでプロジェクターを利用したDVDの視聴を実施。ジェンダーに関するとても理解しやすいストーリーで、生徒一人一人の価値観に訴えかける内容であった。ただ、画面が見にくい部分があったため、視聴方法を検討する必要がある。</p> <p>4.予定通り実施できた。継続していきたい。</p> <p>4.見える化が不十分であった。先生方からの情報で支援につながるというパターンが多かった。生徒の相談する力の育成に努めたい。</p> <p>5.HPの記事は月10回程度は更新できた。新聞記事についてもよりタイムリーに紹介できるように努めたい。</p> <p>5.月一回程度保険だよりを発行し情報提供に努めた。マスク着用や検温の確認等の感染対策を徹底したい。</p> <p>6.取り組んでいるが、発表まで至っていない。各科目での実施を進める。</p> <p>6.各部門積極的に取り組んでいる。</p>						<p>(1) 教職員の共通理解のもと、規範意識の向上と基本的生活習慣の確立を図る。特に、時間厳守や集合指導、並びに挨拶指導の徹底を図る。</p> <p>(2) 校風の高揚に努め、学校行事の充実を図る。</p> <p>(3) 家庭学習、読書を充実させ、学力の向上を図る。</p> <p>(4) 各種の検定合格・資格取得を奨励し、希望進路の実現に繋げる。</p> <p>(5) 望ましい教育条件の整備・充実に努める。</p> <p>(6) 全ての教育活動において、人権・同和教育、道徳教育の涵養に努める。</p> <p>(7) 教育相談、特別支援教育の充実に努め、丁寧できめ細かい対応を行う。</p> <p>(8) ふるさと教育を推進し、地域や時代のニーズに対応できる人材を育む。</p> <p>(9) キャリア教育の充実に努め、望ましい職業観・勤労観の育成に努める。</p> <p>(10) 農業教育をとおして、科学性・社会性・指導性を養成するとともに、地域に根ざした特色ある専門教育とプロジェクト活動の推進を図る。</p> <p>(11) 「環境保全型農業」、「スマート農業」、「GAP農業教育」の推進を図る。</p> <p>(12) 服務規律を遵守し、「島農不祥事0(ゼロ)」を徹底・継続する。</p>				
※「評価」の各学期の欄に、下記の4～1の評価を記入してください。 4：十分達成できている 3：おおむね達成できている 2：どちらかという達成できていない 1：ほとんど達成できていない										
努力目標	評価項目	分掌	具体項目	目標	評価					成果と課題
					生徒	保護者	職員	関係者	総括	
1.ア 規範意識・基本的生活習慣の確立	規範意識の向上	生徒指導	規範意識と責任感の確立	校則やきまりを守る責任感を養い、社会性豊かな人格を育成する。	3.4	3.4	2.7	3.4	3.2	昨年より総括の評価が0.3ポイント下がった。継続して指導していきたい。
	基本的習慣の確立	生徒指導	基本的生活習慣の確立	容儀や行動において高校生としてふさわしい生活習慣を身につけさせる。	3.5	3.5	2.9	4.0	3.5	昨年度より生徒の評価が0.1ポイント上がった。全体は落ち着いている。
2.ア 学校行事の充実と校風の高揚		農ク	学校行事の活性化	月に1回以上行事を行う。	3.0	3.2	3.2	3.5	3.2	生徒主体の行事運営に傾注した。ICT機器を活用し、対象生徒や運営生徒のみでなく、一般生徒も能動的に参加できる工夫を行った。
イ 部活動の充実		農ク	農事部、文化部、運動部の活性化	各学期ごとで部活動経験なしの生徒0を目指す。	3.1	3.0	2.2	3.5	3.0	県全体の調査によると、本校は運動部加入率が相対的に低いことがわかる。今後農業クラブ予算の適正配分に傾注し、充実した部活動となるようにしたい。
3.ア 家庭学習時間時間の定着と基礎学力向上および読書指導の充実	基礎学力の向上	教務	家庭学習の取り組みを数値化し基礎学力の向上につなげる。	家庭学習強化週間において、平均2時間以上を目指す。	2.8	2.8	2.2	3.5	2.8	6月9.6、6分、11月が8.7、8分で1.20分には3.0分あまり足りていない。目標を掲げたが、教務から生徒に対しての具体的なアプローチがなかった。来年度はしっかり目標を伝え、予定表を作成させるなどの方法で目標を達成したい。
	読書指導の充実	図書情報	「朝の読書」の推進	月1回の図書館便り「あめんぼ」の発行と新刊紹介により、図書館利用数および貸し出し数の増加、朝読書の推進を図る。	2.2	2.6	2.4	3.0	2.6	月1回の図書館便りは発行できた。図書館利用者・貸出数はタブレットの普及により減少傾向にあり、朝読はクラス・職員により温度差が見られた。職員の見解を統一し、図書委員会を中心とした定期的な呼びかけが必要。
イ 資格取得の奨励と希望進路の実現	資格取得の奨励	農務	資格取得に向けた補習体制をつくり、合格者数を上げる	3年間で、資格ゼロの生徒をなくす	2.9	3.0	2.4	3.5	3.0	農業技術検定の合格率がアップした。資格ゼロの生徒をなくしたい。
	希望進路の実現	進路	進路意識の向上と希望進路の100%実現	3年生の進路100%実現	3.3	3.3	2.8	4.0	3.4	3年生の進路実現はできたと思う。面談等が十分でない面があった。
ウ 教育環境の整備と充実		農務	旧施設の更新と環境整備の充実を図る	月1回の安全点検の実施と掃除の徹底	3.1	3.3	2.5	3.5	3.1	施設の維持補修どまりである。安全点検は実施した。
4.ア 人権・同和教育並びに道徳教育の推進		研修	人権教育の推進といじめ防止	人権教育に関する全校集会を開き、講話やDVD視聴等を行う。総括3.5以上を目指す。	3.4	3.4	3.1	3.8	3.4	予定通り実施できた。次年度も継続していきたい。
イ 教育相談ならびに特別支援教育の充実	教育相談の充実	生徒相談	悩み調査や相談活動の実施	5月、9月、1月に悩み調査を実施し、毎月発行する便りで相談を呼びかける。	3.2	3.3	3.1	3.5	3.3	悩み調査、いじめ調査においていじめ等の生徒状況が聞き取れていると思う。
	特別支援教育の充実	生徒相談	必要な支援の把握と継続的支援	「島農5つのルール」を提示し行動規範を見える化することによって学校生活における困り感を減らす。	3.0	3.2	2.4	3.5	3.0	一斉指導が通らない生徒に対する全校あがりの支援体制には至っていない。対応するかどうかの議論も必要。

評価項目	評価項目	分掌	具体項目	目標	評価					成果と課題
					生徒	保護者	職員	関係者	総括	
5.ア 広報活動の推進		広報	HP（ブログ）による情報発信及び本校活動が紹介された新聞記事の活用	学校行事、各学科活動、部活動、関連新聞記事など、それぞれのページにおいて最低月2回更新し、タイムリーな情報発信に努める。	3.1	3.2	3.2	3.0	3.1	HPの記事は、月7～8回程度更新できた。今後タイムリーな情報発信に努めたい。
イ 体育・健康教育と食育の推進	食育の推進	保健	健康の保持増進、基本的な生活習慣の確立	朝食の重要性や <b>朝食</b> など、食育について学期に一回程度保健便りを発行し、周知する。	3.3	3.3	3.5	3.3	3.4	保健だよりは発行できた。また、各クラスに消毒液を設置した。今後は国の方針を見ながら感染症対策をすすめる。
6.ア 特地域に根ざした特色ある専門教育とプロジェクト活動の推進		農務	生徒、職員が課題を設定し、研究活動を行う	専攻、課題研究、部活動を通して全部門においてプロジェクト活動を実施	3.0	3.4	3.0	3.6	3.3	生徒、職員の研究活動ができた。校内発表会への参加を増やす。
イ 環境保全型農業教育の推進		農務	各部門で環境を配慮した農業生産技術の確立を目指す	減農薬、減化学肥料の実施	3.2	3.5	2.9	3.9	3.4	各部門において、生産技術の継続ができた。スマート農業の活用